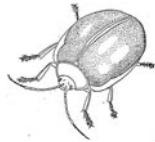


# たんぽう



## スズバチの巣から羽化した昆虫

高橋 奏太

僕は2011年3月20日に三田市木器でスズバチの巣を採取して、持ち帰って観察していたので、その様子を報告します。

巣は、生け垣の枝にくっついていて、枝ごと持ち帰ろうとすると枝から外れ、巣の壁の一部がはがれ落ちてしまいました。すると、中が見えるようになり、3つの繭と一部屋のごみ溜のようなところが見えました。繭は、薄い紙のような感じで、ごみ溜めには干からびた蛾の幼虫のようなものが入っていました。3つの繭のうち、ごみ溜めの横にあった繭を破って、観察することにしました。

しばらく放置していたのですが、5月6日に見てみると蛹になっていました。

5月16日には、見えていなかった部屋からハチが出てきました(図1)。巣は、図鑑で調べると明らかにスズバチのものだったのに、全く違うハチが出てきて驚きました。5月19日にも、同じハチが羽化してきて、すごく不思議でした。

でもやっと、5月6日に蛹化したハチが5月24日に羽化しました(図2)。それが、初めて羽化したスズバチでした。

5月27日には、さらに意外なことが起きました。3つ見えていた繭のうち真ん中を破ると、黒い甲虫が出てきたからです(図3)。

知識の無い僕は、勝手にこれをツチハンミョウと勘違いしてしまい、図鑑で調べたのですが当然載っていませんでした。ツチハンミョウなら、ほかの繭にも寄生しているかもしれないと思い、まだ開けていなかった3つ目の繭を開けてみたのですが、スズバチの蛹があるだけでした。

5月28日に兵庫県立人と自然の博物館の八木先生に伺ったところ、最初に羽化したハチはヒメバチの一種で、甲虫の方はムモンオオハナノミであることが分かりました。さらに、三田市有馬富士自然学習センターの中峰先生を通じてアドバイスをくださった大阪自然史博物館の松本先生によると、ヒメバチはキアシオナガトガリヒメバチで、スズバチに寄生する種だということでした。ムモンオオハナノミもスズバチを食べるので、2種類もの昆虫に寄生されていたことになり、自然の厳しさを感じました。



図1 5月16日に巣から出てきたハチ。



図2 5月24日に羽化したスズバチ。



図3 5月27日に巣から出てきた甲虫。

その後、6月1日、4日、5日、8日にスズバチが羽化しました。これらの個体はなぜかそろって小型でした。

これからも、スズバチの巣を飼育して、どんな昆虫が寄生しているか調べていこうと思いました。

最後に、親切に質問に答えてくださった八木先生と、発表を勧めてくださった中峰先生、ヒメバチを同定していただいた松本先生に厚くお礼を申し上げます。

(Sôta TAKAHASHI 三田市立ゆりのき台中学校)